

## 第10回 江戸幕府の支配体制 ―幕藩体制と鎖国―

### § 1 江戸幕府の成立

信長・秀吉のあとを継いで権力を握ったのは徳川家康だった。秀吉の死後、子の豊臣秀頼が幼少であったため、家康が政治の実権を握るようになった。それに反発した石田三成との対立は、全国の大名を二つに分けた戦いとなった（関ヶ原の戦い）。戦いに勝利した家康は、1603年に征夷大將軍に任じられ、江戸（東京）に幕府を開いた。以後、約260年間続いた徳川將軍の時代を江戸時代という。

### § 2 江戸幕府の支配体制

將軍は各地の大名に領地を与え、その支配を認めた。大名が支配する家臣や領地を藩という。その一方で、重要な港や都市、鉱山などは幕府領（天領）として將軍が直接支配することで、幕府は強大な権力を維持した。そのような將軍（幕府）と大名（藩）によって全国の土地と人民を支配する体制を幕藩体制という。

大名は家康の子孫である親藩、家康の家臣だった譜代、それ以外の外様に分けられる。幕府は、それぞれの大名に与える領地の場所を工夫することによって相互に監視させる体制を整え、反乱を防ぐために特に外様大名の動きを警戒した。1615年に大名が守るべき決まりをまとめた武家諸法度が定められ、1635年に諸大名を一定期間江戸に住ませる参勤交代の制度が加えられたことによって、いっそう幕府の統制力は強まった。

さらに、幕府は、禁中並公家諸法度を定めて、朝廷も統制下においた。

江戸時代には厳しい身分制度も存在していた。身分は武士・町人・百姓と大きく三つに分かれ、さらに、居住地や服装など日常生活で様々な差別を受ける被差別身分もおかれていた。

### § 3 鎖国政策

幕府は当初、朱印船貿易など海外との貿易をすすめていたが、キリスト教の信仰が身分制度などの支配秩序を崩壊させる危険があると考え、1613年にキリスト教禁教令を出し、貿易を縮小した。キリスト教徒を中心とした一揆（島原・天草一揆）の発生によって禁教政策はいっそう強化され、幕府はオランダと中国以外の外国人が日本に来ることを禁止した。これを鎖国という。そして、海外貿易は長崎の出島だけで行われ、幕府が独占した。

その一方で、対馬藩は朝鮮、薩摩藩は琉球、松前藩はアイヌ民族との交流を続けていた。出島と合わせ「四つの口」と呼ばれる。

## 第10回 江戸幕府の支配体制 —幕藩体制と鎖国—

### §1 江戸幕府の成立

信長・秀吉のあとを継いで権力を握ったのは徳川家康だった。秀吉の死後、子の豊臣秀頼が幼少であったため、家康が政治の実権を握るようになった。それに反発した石田三成との対立は、全国の大名を二つに分けた戦いとなった（関ヶ原の戦い）。戦いに勝利した家康は、1603年に征夷大将軍に任じられ、江戸（東京）に幕府を開いた。以後、約260年間続いた徳川将軍の時代を江戸時代という。

### §2 江戸幕府の支配体制

将軍は各地の大名に領地を与え、その支配を認めた。大名が支配する家臣や領地を藩という。その一方で、重要な港や都市、鉱山などは幕府領（天領）として将軍が直接支配することで、幕府は強大な権力を維持した。そのような将軍（幕府）と大名（藩）によって全国の土地と人民を支配する体制を幕藩体制という。

大名は家康の子孫である親藩、家康の家臣だった譜代、それ以外の外様に分けられる。幕府は、それぞれの大名に与える領地の場所を工夫することによって相互に監視させる体制を整え、反乱を防ぐために特に外様大名の動きを警戒した。1615年に大名が守るべき決まりをまとめた武家諸法度が定められ、1635年に諸大名を一定期間江戸に住まわせる参勤交代の制度が加えられたことによって、いっそう幕府の統制力は強まった。

さらに、幕府は、禁中並公家諸法度を定めて、朝廷も統制下においた。

江戸時代には厳しい身分制度も存在していた。身分は武士・町人・百姓と大きく三つに分かれ、さらに、居住地や服装など日常生活で様々な差別を受ける被差別身分もおかれていた。

### §3 鎖国政策

幕府は当初、朱印船貿易など海外との貿易をすすめていたが、キリスト教の信仰が身分制度などの支配秩序を崩壊させる危険があると考え、1613年にキリスト教禁教令を出し、

貿易を縮小した。キリスト教徒を中心とした一揆(島原・天草一揆)の発生によって禁教政策はいっそう強化され、幕府はオランダと中国以外の外国人が日本に来ることを禁止した。これを鎖国という。そして、海外貿易は長崎の出島だけで行われ、幕府が独占した。その一方で、対馬藩は朝鮮、薩摩藩は琉球、松前藩はアイヌ民族との交流を続けた。出島と合わせ「四つの口」と呼ばれる。

## Part 10: The Edo Shogunate's system of rule

### - the bakuhan system and seclusion

#### § 1 Establishment of the Edo Shogunate

Tokugawa Ieyasu(徳川家康) succeeded Nobunaga and Hideyoshi in power. After Hideyoshi's death, Ieyasu came to hold political power because his son Toyotomi Hideyori was still a child. His conflict with Ishida Mitsunari, who opposed him, resulted in a battle that divided the nation's feudal lords in two (Battle of Sekigahara (関ヶ原の戦い “Sekigahara no Tatakai” ). After winning the battle, Ieyasu was appointed Seii Taishogun (征夷大將軍 General conquering barbarians) in 1603 and opened the shogunate in Edo (Tokyo). The period of the Tokugawa shoguns that followed, which lasted for approximately 260 years, is known as the Edo period(江戸時代 “Edo jidai” ).

#### § 2 Ruling system of the Edo shogunate

The shogun granted fiefdoms to the feudal lords (大名” Daimyo”) in various regions and authorised their rule. The vassals and fiefdoms ruled by Daimyo are called domains (藩” Han”) . At the same time, the shogunate maintained its powerful authority by directly controlling important ports, cities and mines as shogunate fiefdoms (天領” tenryo” ). Such a system in which the Shogun (幕府” bakufu” ) and Daimyo (藩” han” ) controlled the land and people throughout the country is called the Bakuhan system(幕藩体制 “Bakuhan Taisei” ).

Daimyo can be divided into three categories : Ieyasu's descendants are called Shinpan(親藩), Ieyasu's vassals are called Fudai(譜代) and all others are called Tozama(外様). The Shogunate set up a system of mutual surveillance by devising the location of the domains granted to each Daimyo, and was particularly wary of the movements of the Tozama in order to prevent rebellion. The Shogunate's control was further strengthened in 1615 with the establishment of the Samurai Laws(武家諸法度 “buke-shohatto” ), which laid down the rules to be observed by the feudal lords, and in 1635 with the addition of a system of daimyo attendance at Edo for a certain period of time(参勤交代 “sankinkohtai” ).

Furthermore, the Shogunate also brought the Imperial Court under its control by

establishing the Laws of emperors and nobles(禁中並公家諸法度 “kinchu-narabini-kuge-shohatto” ) .

A strict status system also existed during the Edo period. There were three main categories of status: samurai, townspeople and peasants, and there were also discriminatory classes who were subject to various forms of discrimination in their daily lives, such as where they lived and how they dressed.

### § 3 Policy of seclusion

At first, the Shogunate promoted trade with foreign countries, such as the trade in red-seal ships(朱印船貿易” shuinsen-booeiki” ). However, believing that Christianity posed a danger of disrupting the ruling order, including the status system, the Shogunate issued a Christian ban(キリスト教禁止令) in 1613, and curtailed trade. The outbreak of revolts(一揆” ikki” ) led by Christians (the Shimabara and Amakusa revolts(島原・天草一揆)) further strengthened the Christianity prohibition policy, and the shogunate banned all foreigners except for the Dutch and Chinese from coming to Japan. This was called "national seclusion(鎖国” sakoku” )” . Overseas trade was conducted only on Dejima Island in Nagasaki and was monopolized by the Shogunate. On the other hand, the Tsushima Clan continued to trade with Korea, the Satsuma Clan with the Ryukyu Islands, and the Matsumae Clan with the Ainu people. Together with Dejima, they are known as the "Four Doors(四つの口)” .

## 第 10 回 江户幕府的统治体制 —幕藩体制和锁国—

### § 1 江户幕府的建立

继织田信长与丰臣秀吉之后掌握权力的是德川家康。秀吉死后，其子丰臣秀赖年幼，家康掌握了政治的实权。反抗家康并与之对立的石田三成，引发了使全国大名分裂为两个阵营的战争（关原合战（関ヶ原の戦い））。在战争中取得胜利的家康，于 1603 年被任命为征夷大将军，并在江户（今东京）建立了幕府。在此之后存续了约 260 年的德川将军时代被称为江户时代。

### § 2 江户幕府的统治制度

将军向各地的大名授予领地，承认他们的统治。大名统治之下的家臣及领地被称为藩。另一方面，重要的港口，都市及矿山等作为幕府的领地（天领）被将军直接管辖，以维持幕府强大的权力。这样的由将军（幕府）及大名（藩）统治全国土地和人民的制度被称为幕藩体制。

大名分别为家康的后代亲藩（親藩）大名，家康的家臣谱代大名，除此之外为外样（外様）大名。幕府通过巧妙安排分配给每个大名的领地所在地，使各个大名之间形成一个相互监督的体系，并且为防止叛乱将外样大名的活动作为特别警戒对象。1615 年制定了武家诸法度，规定了大名应该遵守的法则，又于 1635 年，追加了大名在一定时期内需居住在江户的参勤交代制度，从而进一步强化了幕府的统治。

在此之上，幕府还制定了禁中并公家诸法度（江户幕府确立它与天皇和公家关系的法例）。使朝廷也处于其控制之下。

在江户时代，也存在着严格的身份制度。身份被分为武士、工商业者及农民三大类，甚至在日常生活中也存在着因居住地或着装等方面的各种形式的差别对待。

### § 3 孤立（锁国）政策

幕府最初也促进了例如朱印船贸易等与海外的贸易交流，但考虑到基督教的信仰会威胁到身份制度的统治秩序，遂于 1613 年颁布了基督教禁教令，缩小了贸易往来的范围。由于以基督教徒为中心的起义「史称岛原起义或天草起义（島原天草之乱）」的发生，禁教政策被进一步强化，幕府便明令禁止荷兰和中国以外的外国人来日。这一政策被称之为锁国政策。此后，海外贸易只在长崎的出岛进行，由幕府垄断。

同时，对马藩与朝鲜、萨摩藩与琉球、松前藩与阿伊努族的交流依然在持续。这三个港口与出岛被合称为“四口”。